

かまた礼二の議会だより

第4号

2010年4月26日発行

発行者

塩竈市議会議員 鎌田礼二

〒985-0077 塩竈市梅の宮 1-26

・TEL & FAX 022-365-9626

・mail kamata02@c-marinet.ne.jp

早いもので もう3年！

市民の皆さまよりご支持いただき市議会に送り出していただいて、早いものでもう3年が経過致しました。来年は選挙です。

私の議会での発言を中心にまとめた『かまた礼二の議会だより』も今回で第4号となりました。この議会だよりの配布の際、お聞かせいただいた意見を、定例議会の一般質問や委員会等で皆様の一人一人の代弁者として発言をさせていただきます。今後ともご意見をお寄せ下さいますようお願い致します。

また、昨年末につくられた『塩竈市議会基本条例策定特別委員会』の委員をさせていただきます。

この議会基本条例は、地方議会の運営をどのように行うのかを定めた条例で塩竈市議会も今年秋の制定を目指しており、今月14日には増田元総務大臣をお迎えし「ふれあいエस्प」で公開形式の特別委員会を開催しています。

今後も、今までの概念にとらわれることなく、皆様の手足となり働きたいと思っておりますので、よろしくようお願い致します。

平成21年9月の定例議会での一般質問

※紙面の関係で私の質問のみを掲載させていただきます。

1、市長の政治姿勢について

先月30日の衆議院選挙で、民主党が圧勝しました。そして、一昨日、民主党・社民党そして国民新党の3党による『鳩山連立内閣』が成立しました。自民党政権から政権交代をしたわけではありますが、この政権交代により様々な面での混乱が生じるのではと心配しております。

昨日ニュースでも流れておりましたが、国土交通大臣は八場ダムの建設停止、そして厚生労働大臣は後期高齢者保健制度の廃止を明言しておりました。この政権交代により塩竈市としてどのよう



な影響が考えられるか。また、今後 どう対応されるのかをお聞かせ下さい。

得に「後期高齢者保健制度」の廃止は、かなり大きな影響があるのではないかと思います。後期高齢者保健制度が発足1年以上が経過しておりますが、1年間の収支や運営状況についてお聞かせ下さい。

2、市の行政施設について

塩竈市の庁舎は、昭和35年に建設されたと聞いておりますが、そういたしますと約50年が経過しております。今回9月補正予算で本庁舎耐震補強事業として700万円を計上しており耐震設計をされるようです。

実際耐震補強を行うとすれば、かなり大規模な工事となり、経費もかなりの金額になりそうですが、どうしても耐震補強の方向なのでしょうか。本来であれば建て替えを検討する時期ではないでしょうか。市長の見解をお聞かせ下さい。

3、教育関係について

昨年そして、今年も「全国学力調査」の結果は、あまり芳しい結果では無かったようです。そんな中、昨年からサマースクールを開校しているわけですが、このサマースクールは昨年と今年とどう違うのか。どういった所にウエイトを置いて実施しているのかをお聞かせください。併せて、サマースクールを今後どう進めていくのかビジョンをお聞かせく

ださい。

2 回目の質問

2、市の行政施設について

平成9年7月の二次耐震診断結果がかなり低くて、IS値が0.22だったと。耐震補強の工事額については2億円位だということですが、金額もさることながらこの工事をやることによって庁舎への出入りが大変であるとか、業務がなかなか進まないとか、そういった支障をきたす面もあるのではないかと、市民サービスの低下になるのではないかと思いますがいかがでしょうか。

それから、一般的な考え方として50年も経過するものであれば、普通の考え方としてはやはり建て替えを検討するのが普通だと思います。新しい庁舎建設に12億から13億かかるということですが、現在は市の施設と庁舎関係は分散しています。やはり1ヶ所に集中してやれば会議室の部屋数も減るし、移動にかかる時間も少なくて済むし、そういったことで効率が上がるのではないかと思いますがいかがですが、考えをお聞かせ下さい。

3、教育関係について

今回学力調査は2年連続で低かったわけですが、この結果について単純にどういうふうに見えるのかお聞かせ願いたい。

教育長はサマースクールでの成果を揚げておりますが、それが直接学力向上やら何やらにはねあがると考えているのでしょうか。

3 回目の質問

2、市の行政施設について

この庁舎についてはやはり1ヶ所に集中した方が、効率が上がって意外と出費が少なくなる、それが返済に回せるという考え方です。なおかつ市民の方や職員から見てやはり誇りある庁舎が出来上がれば仕事の進みや何やらも違うんじゃないでしょうか。見えない部分での効果もあるのではと思います。

3、教育関係について

どうも詰め込み主義にはならないかなと心配があるのですが、学力だけ上がればいいと、詰め込めばいいということじゃなくて、やはり心と体と一緒に知の部分の上げていかないといけないと思います。そういうバランス感覚が必要じゃないかと思

ますし、そういった意味では浦戸の体験教室などにもう少し力を入れてそういった別の面から引き上げていって、詰め込む意欲を高める、そういうバランスを図りつつ、違う方向から攻めるといことも手法ではないかと思いますがいかがでしょうか。



平成21年12月の定例議会での一般質問

※紙面の関係で私の質問のみを掲載させていただきます。

1、市立病院について

「塩竈市立病院の今後のあり方審議会」の答申書を受けて、今年度より改革プランに基づき病院改革が進められておりますが、上半期の収支・病院経営の状況が分かりましたらお聞かせ下さい。

また、昨年末には病床数を199床から178床に減らし、そして今年に入り166床と当初より33床が減った訳ですが、医師への報酬は確保出来ているのでしょうか。またこのことは、病院経営に影響を与えていないのかをお聞かせ下さい。

今、新型インフルエンザが猛威をふるっており、マスコミの報道によると山は越したとの報道もありますが、本格的な冬を迎えるのはこれからで予断を許さない状況にあると思います。この新型インフルエンザ流行に対して、塩竈市立病院としてはどんな対策・対応をとられたのかをお聞かせ下さい。

2、財政の健全化について

次に塩竈市の財政の健全化に対する考え方についてお聞きしたいと思います

一般会計の決算をみますと毎年、市税が減少化傾向にあり、その反面生活保護や児童手当等の扶助費は上昇傾向にあります。昨年度は、この扶助費が約32億円で一般会計支出の17.3%を

も占める金額でした。また、市立病院と魚市場への繰り出しもあり、塩竈の財政を考えると今後が心配です。塩竈市の現状と対応についてお聞かせ下さい。

この、市税の減少は塩竈の人口の減少によるものが大きいと思います。これを打破するには塩竈市への定住人口を増やさなければいけないと思いますが、この定住人口の減少防止対策をどう考えておられるのかお聞かせ下さい。

3、高齢化対策について

次に塩竈市の高齢化に対する考え方についてお聞きしたいと思います。

全国的に高齢化率が高まりつつありますが、当塩竈市に於いても同じで、むしろ全国平均より高いと思いますが、高齢化率はどうなっているのでしょうか。

私の知り合いに両親共病院に入院しておりある時期を超えると出なければならないそうです。次に引き受けてくれる病院を探すのが大変で、これでは自分達の方が先にまいってしまうとこぼしておりました。特別養護老人ホームについては何年も待ち年数あり、入れない状況のようです。塩竈市の特別養護老人ホーム等の老人福祉施設の現状と今後どうするのかビジョンをお聞かせ下さい。

4、教育関係について

最後に、教育関係ですが『学力向上について』についてお聞き致します。

「全国学力調査」の結果を見ますと、毎年あまり芳しい結果では無いようです。サマースクールの開校や教育フェスティバルそして小人数制の導入など色々努力はされているようですが、現状をお聞かせ下さい。

2回目の質問

1、市立病院について

今年の春に、福岡県の八女総合病院を視察してきましたが、この病院が地方公営企業法の全部適用を受けて改革を進めた病院ですが、現在の職員や医師の給料が、もう倍になっているということです。皆さんの努力でもう元気はつらつと仕事をしている状況を今年春に見てきました。市立病院も、ますます頑張っていたきたいと思います。

今回のインフルエンザについてですが、幸運にも若干弱い新型インフルエンザのようです。今回はそういったことで、将来来るといわれている強烈なインフルエンザへの予行演習ができたのかなと思います。市立病院では、新型インフルエンザに対する対策・対応は前もって検討されていたのでしょうか。

それから塩竈市立病院ですが、市で出資して、市で運営して、市長が責任者になっているわけですが、普通の会社と比較をしますと、一般市民は市税を投入しているわけですから、意味合い的には市民が株主といえます。私は石油会社におりましたので、ガソリンを入れるのであれば1円安いとか、そういうメリットがあったわけですが、塩竈市民が特別優遇を受けるようにはできないものではないでしょうか。

市立病院へ税金を投入しており、繰り出しも約7億、去年は13億も出しておりますが、市民はどういうメリットを受けているのでしょうか。

2、財政の健全化について

将来的には44億の財政不足が来るということですが、誰が考えてもやはり税収入が下がる傾向にあって、そんな中、支出で大きい扶助費の割合が年々高まっているわけです。将来を考えると、やはり行き詰まるのではないのでしょうか。職員の削減や、色々無駄を省いていっても限界があると思います。やはりどうしても市民の人口を増やす努力をもう少し本気でやらないといけない時期にきていると考えますがいかがでしょうか。

やはり若い人達が入って来やすいような、子育てについての支援をするとかですね。それから、私の一つの考えですが、他から入ってくる人に対しては5年間市民税を猶予するとか。住むなら塩



竈に住んでみたいな、塩竈からスタートしたいというような、そういった施策が必要なのではないかと思います。

3、高齢化対策について

問題はやはり入所型の施設が足りないということです。収容者数が市内で364名という回答がありました。これでは施設が少ないと思います。

年々歳々お年寄りが増えており、そして寝たきりの方も増えています。そんな中で、病院に入れるのも大変で、入ったら直ぐ出なくてはいけないというくらい回しの状態にあるわけです。何とかこの入所型のタイプを増やせないものか。これは行政として、何らかのアクションが必要な時期に来ているのではないかと思います。いかがでしょうか。

それから、この高齢化率に伴ってのことですが、旧浦戸二小のことについて、桂島の方から「是非ちょっと相談に乗って欲しんだ」ということで、旧校舎を見てきました。結構立派な小学校で、もったいないなあと思いつつ見てきました。何とか老人福祉施設に転用できないかということなのですが、今回要望書も浦戸の方から出ているようですね。その中でも、この旧浦戸二小や、寒風沢の保育所等、これに転用はできないのか、有効利用はできないのかというような要望書が出ておりますけれども、何とか考えていただきたい。

この方は、「そういった施設ができるのなら、私はお金を出したい」ということです。それだけ本気になって考えてくださっている方もおられるわけですし、何とかこれを真摯に捉えて、この要望書の回答をいただきたいと思います。

4、教育関係について

この間、総務教育常任委員会で行政視察を大分の豊後高田市に行ってきました。この豊後高田市は、もう力の入れ方が全く違いました。市民ぐるみで推進委員会を立ち上げています。塩竈の教育についても、今までの手法だけではなくて、もっと踏み込む時期に来ているのではないかと考えますが、見解をお聞かせ下さい。

3回目の質問

1、市立病院について

市民を優遇して診断することはできないというのですが、せめてですね、今後利益を生んでいた

だいて、もう繰り出しがないように努力していただきたいと思います。

2、財政の健全化について

やはりポイントとしては、住むなら塩竈にしたいと思えるような魅力ある市づくりに、今後とも専念していただきたいと思います。

3、高齢化対策について

先ほどの回答ですと、旧浦戸二小が、老人福祉施設として今の段階では無理なら、そのままの状態か、軽微な改造で済むならいいということですが。何とか利用者の公募をして、少しでもそういった形になるように努力をお願い致します。

それからこの旧浦戸二小ですが、その敬老施設以外に、塩竈市内の小中学校の体験教室のような使い方はできないでしょうか。浦戸とかはそういった体験をする場所がいっぱいありますし、価値あるものがいっぱいあると思うのですが、そういう宿泊設備に転用はできないものでしょうか。



市民からの声

早いものですね、鎌田さんに一票を入れ、はらはらしながら当選発表を見たのが3年前。

この間、毎年ニュース(かまた礼二の議会だより)を発行し、鎌田さん自ら配って歩く姿を見て、私の一票は無駄ではなかったんだなあと思いました。自分の足で歩いて、聞いた市民の声を議会での質問にも反映されているとのこと、市会議員の基本の姿勢ではないでしょうか。

これからも応援しています。頑張ってください。

泉沢在住 M.T

今回、泉沢のM.Tさんから励ましの文章をいただきました。ありがとうございます。読者の皆様からの、ご意見をお待ちしております。 鎌田礼二

少林寺拳法塩竈道院入会者募集

少林寺拳法に入会して息子が変わった！

息子は姉二人の下に生まれたので、姉たちに頼ることが多く少しのことでよく泣いてばかりいました。少林寺拳法に入門し、最近は強くなってきたことが自信につながり泣き虫ではなくなりました。

また、少林寺拳法の目指す自己確立(きちんとした自分をつくる)と自他共楽(回りの人のことも考える)ができてきたかなあとと思っています。

学校では、自分から発言することのなかった息子が、先生から色々な行事でリーダー的存在になってきたと言われるようにもなりました。進んで取り組む姿を褒めていただけるようにもなり、親の私が一番驚いています。

今後は本当の強さを心より感じとれる息子に成長できるように、今後も宜しくお願い致します。

新富町 寿宜君の母

藤倉の後藤さん親子



親子3人で少林寺拳法！

私は、主人と6年生の息子の3人で少林寺拳法を習っています。

少林寺拳法を習い始めたきっかけは、息子には自分の身は、自分で守れるようにしてあげたかったからです。最近、怖い事件が多く身近なところでも事件が起こっています。子供は、小さなうちなら親が守ってあげることができますが、大きくなれば行動範囲が広がり何時も親と一緒にいることはできません。一人でいる時に何か起きた時の身を守る手段として、少林寺拳法を身につけて欲し

いと思います。

また、技術面だけではなく、挨拶や精神面の成長にもとても良いと思っています。

そして、家族で習っておりますので、共通の話題になり会話も増えて、家族のコミュニケーションになっております。

息子は、挨拶が苦手でしたが、今はしっかり出来るようになり、集中力も身に付いたように思います。稽古はもちろんのこと、学校の授業にも集中出来るようになり、親として大変喜んでおります。

道場での稽古は、年齢層が広く、大人から小さな子供まで一緒に稽古をするので学校でいう縦割り活動のような感じで、人と人との関わり方がとても良いと思います。

これからも家族の共通の趣味として、楽しみながら続けて行きたいと思います。

藤倉 後藤

感謝の気持ちをしっかりと声に！

息子の凌が少林寺拳法塩竈道院に入会したのは、小学校2年生の時でした。

その時は幼さもあり騒いだり言うことを聞かなかったりしていました。中学年、高学年となるうちに道場にも年下の子供達が入会してくるようになり、自覚もできしっかりしてきました。挨拶や人に対しての感謝の気持ちを自らしっかりと声に出して出来るようになりました。

今年4月から中学校生活が始まり、部活動などでなかなか稽古に参加ができなくなるとありますが、可能な限り参加させたいと思います。

梅の宮 凌君の父

